投げて、すくって、釣って、こねる

二小で秋祭り

第二小学校（隈部孝二校長）で10月13日、放課後の時間を利用して秋祭りが開催されました。

このイベントは、コロナ禍で行事やイベントが制限される中でも児童らにみんなで楽しめる時間を共有してもらおうと、PTAが主体となって企画しました。祭りには1年生から6年生まで参加し、全学年混合の8つの班に分かれ、お菓子釣りや金魚すくい、ボーリングやスライム作りを楽しみました。

6年生の内田健太さん（高久野）は「今年が最後の学年だが、いい思い出作りができてよかった。すべての競技を楽しめた」と笑顔で話しました。

▶スライム作りを楽しむ児童

▶杉本さん（右）と村上さん（左）

50年間無事故無違反で表彰

交通栄誉章緑十字銅章

長年交通安全活動に貢献し、良好な功績があった人などに贈られる交通栄誉章「緑十字銅章」を村上忠義さん（長山）と杉本シヅ子さん（関村）の二人が受章し、10月1日に町役場で報告会が行われました。

二人は半世紀にわたり無事故無違反の運転を続けており、この実績が評価され今回の受賞となりました。

受章した村上さんは「免許を取得した時に人に迷惑をかけるなと言われたことを思い出す」と懐かしそうに話し、杉本さんは「相手の立場にたって運転することをいつも心がけてきた」と話しました。

佐藤町長は「町民の模範です。これからも安全運転を続けてください」をたたえました。

目で見て感じて環境を学ぶ

四小4年生が水生生物教室

第四小学校（松永尚子校長）の4年生15人が10月7日、総合的な学習の時間に環境学習の一環として、同校近くの内田川の生物や水質を調査しました。

これは、環境について学ぶとともに地域のよさを見つけ、次世代へきれいな自然を残していくことを目的に行われています。この日は初めに、エコアくまもと、熊本環境センターの職員が児童に環境問題や川の様子について説明をし、その後実際に上坂下の内田川を訪れて生物の観察や水質の調査を行いました。児童は3人1組で川の生き物を夢中になって探しました。

奥村和永さん（上坂下）は「大小様々な生物を見つけられて面白かった。環境のためにも、ごみを川に捨てないようにします」と話しました。

▶真剣な眼差しで生物の観察をする児童

▶右から、南関町長、玉東町長、玉名市長、和水町長

玉名定住自立圏形成協定合同調印式

「定住自立圏形成協定の一部を変更する協定」の合同調印式が10月7日に行われ、玉名圏の4市町（玉名市、南関町、和水町、玉東町）が2016年に締結した「定住自立圏形成協定」を見直す新たな協定を結びました。

定住自立圏形成とは、中心となる市と近隣市町村が人口定住に必要な生活機能を確保するため、相互に連携・協力し地域づくりを進める取り組みです。2016年度作成の協定を具体化した「共生ビジョン」が本年度で終了するため、来年度から5年間の第2期に向けて協定を見直しました。

今回は博物館や文化遺産などの共同利用、自治体ICT基盤の整備、SDGsの推進など6項目を追加し、定めた項目は全部で21になりました。

ICTで学びの可能性を広げる

ICTを活用した公開授業

第四小学校（松永尚子校長）の2年生は10月18日、町で行っている「子どもの体力推進プロジェクト」の一環として、ICTを活用した公開授業を行いました。

四小では、東京女子体育大学の末永祐介准教授と連携してICTを活用した授業を行っています。この日の公開授業は、外部からも多様な意見を集め、より効果的にタブレットを活用した授業を進めていくために行われました。

児童は4つのグループに分かれてマット運動を行い、末永先生や大学の学生からアドバイスを受けながら12の技を練習しました。

黒田朋花さん（四ツ原）は「みんなに見られてちょっと恥ずかしかったけど、前よりも上手にできたのでうれしい」と元気に話しました。

▶オンラインで末永准教授からアドバイスを受ける児童

▶竹箸へ丁寧に絵付けを行う生徒

体験して感じるものづくりの楽しさ

世界に一つだけの箸づくり体験

ヤマチク（山﨑清登代表取締役）第2工場で10月23日、南関中学校（永杉尚久校長）の3年生58人が「世界に一つだけの箸作り体験」を行いました。

この箸づくり体験は、例年行っていた行事がコロナ禍で中止となったことをうけて学年PTAが企画。総合的な学習の時間を利用し、親子で思い出作りができるレクリエーションとして、同社に協力を依頼し実現しました。

生徒は、社員の雪野真理子さん（上長田）に指導を受けながら、事前に作成したデザイン画を参考に、竹箸へ丁寧に絵付けを施しました。

猿渡悠花さん（関外目）は「細い箸に色を塗ってデザインする作業は難しかったが、いい思い出作りができて楽しかった」と笑顔で話しました。

学校の足跡 次の世代へ引き継ぐ

旧南関高校記跡地に記念碑建立

2017年3月に閉校した旧南関高校跡地に記念碑「残心の碑」が設置され、22日に除幕式が行われました。

この記念碑は、同校の歴史や伝統、思いを後世に引き継いでいこうとの思いから南関高校同窓会によって建てられました。当日は卒業生や関係者ら約20人が参加し、記念碑の完成を祝いました。土台を除いた高さは1m、幅1.5mの白御影石製で、心を残し語り継いでいこうとの思いを込めて「残心の碑」と記されています。

同窓会会長の多田隈恵美子会長（上坂下）が「同窓生は誇りを忘れず、他の人は地域に誇りを持てる象徴になってほしい」とあいさつし、佐藤町長は「新庁舎の旧校舎部分は当時の面影を残している。いわば、庁舎自体が巨大な記念碑」と述べました。

▲旧南関高校敷地内に設置された記念碑

▶刈り取った稲をせっせと運ぶ児童

稲刈りに挑戦で稔りの秋実感

一小5年生が稲刈り体験

第一小学校（前田洋志校長）の5年生27人は10月25日、同校近くの水田で稲刈りを行いました。

米作りの学習は食育の一環として、米づくりの重要性や食べ物の大切さを学ぶために行っています。この日は、地域ボランティアの人が講師となって、鎌の使い方や稲の束ね方を教えました。初めは慣れない鎌に苦戦する児童もいましたが、コツをつかむと次々に手際よく稲を刈り取っていきました。

体験した児童は「鎌を最初はうまく使えなかったけど、何回か稲を刈っているうちにうまく使えるようになって楽しかった」と笑顔で話しました。